

第 1 章
概 要

注) 単位未満は四捨五入しているため、合計の数字と内訳は必ずしも一致しない。

第1 人口動態の概要

本県における平成25年の出生、死亡、自然増減、死産、周産期死亡、婚姻及び離婚の概要は表1に示すとおりで、平成24年と比べ、自然増減のみ増加し、その他は減少している。

表1 人口動態の年間発生件数（青森県）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	平成25年	平成24年	対前年比	平成25年	平成24年	対前年比	平成25年	平成24年
出生	9,126	9,168	△ 42	6.8	6.8	0.0	57' 36"	57' 29"
死亡	17,112	17,294	△ 182	12.8	12.8	0.0	30' 43"	30' 29"
乳児死亡	14	24	△ 10	1.5	2.6	△ 1.1	625° 42' 51"	366° 00' 00"
新生児死亡	6	15	△ 9	0.7	1.6	△ 0.9	1,460° 00' 00"	585° 36' 00"
自然増減	△ 7,986	△ 8,126	140	△ 6.0	△ 6.0	0.0
死産	239	260	△ 21	25.5	27.6	△ 2.1	36° 39' 010"	33° 47' 05"
自然死産	112	119	△ 7	12.0	12.6	△ 0.6	78° 12' 51"	73° 48' 54"
人工死産	127	141	△ 14	13.6	15.0	△ 1.4	68° 58' 35"	62° 17' 52"
周産期死亡	26	38	△ 12	2.8	4.1	△ 1.3	336° 55' 23"	231° 09' 28"
妊娠満22週以後の死産	21	24	△ 3	2.3	2.6	△ 0.3	417° 08' 34"	366° 00' 00"
早期新生児死亡	5	14	△ 9	0.5	1.5	△ 1.0	1,752° 00' 00"	627° 25' 43"
婚姻	5,723	5,846	△ 123	4.3	4.3	0.0	1° 31' 50"	1° 30' 09"
離婚	2,335	2,408	△ 73	1.75	1.79	△ 0.04	3° 45' 06"	3° 38' 52"

区分	平成25年	平成24年
合計特殊出生率	1.40	1.36

（全国）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	平成25年	平成24年	対前年比	平成25年	平成24年	対前年比	平成25年	平成24年
出生	1,029,816	1,037,231	△ 7,415	8.2	8.2	0.0	00' 31"	00' 30"
死亡	1,268,436	1,256,359	12,077	10.1	10.0	0.1	00' 25"	00' 25"
乳児死亡	2,185	2,299	△ 114	2.1	2.2	△ 0.1	240' 33"	229' 15"
新生児死亡	1,026	1,065	△ 39	1.0	1.0	0.0	512' 17"	494' 52"
自然増減	△ 238,620	△ 219,128	△ 19,492	△ 1.9	△ 1.7	△ 0.2
死産	24,102	24,800	△ 698	22.9	23.4	△ 0.5	21' 48"	21' 15"
自然死産	10,938	11,448	△ 510	10.4	10.8	△ 0.4	48' 3"	46' 2"
人工死産	13,164	13,352	△ 188	12.5	12.6	△ 0.1	39' 56"	39' 28"
周産期死亡	3,862	4,133	△ 271	3.7	4.0	△ 0.3	136' 6"	127' 31"
妊娠満22週以後の死産	3,110	3,343	△ 233	3.0	3.2	△ 0.2	169' 0"	157' 39"
早期新生児死亡	752	790	△ 38	0.7	0.8	△ 0.1	698' 56"	667' 8"
婚姻	660,613	668,869	△ 8,256	5.3	5.3	0.0	00' 48"	00' 47"
離婚	231,383	235,406	△ 4,023	1.84	1.87	△ 0.03	02' 16"	02' 14"

区分	平成25年	平成24年
合計特殊出生率	1.43	1.41

注:1) 青森県の基礎人口は平成25年が1,333,000人、平成24年が1,347,000人である。

注:2) 全国の基礎人口は平成25年が125,704,000人、平成24年が125,957,000人である。

注:3) 用語の説明及び比率の算出方法については、第2章人口動態統計「利用上の注意」を参照されたい。

1 出生

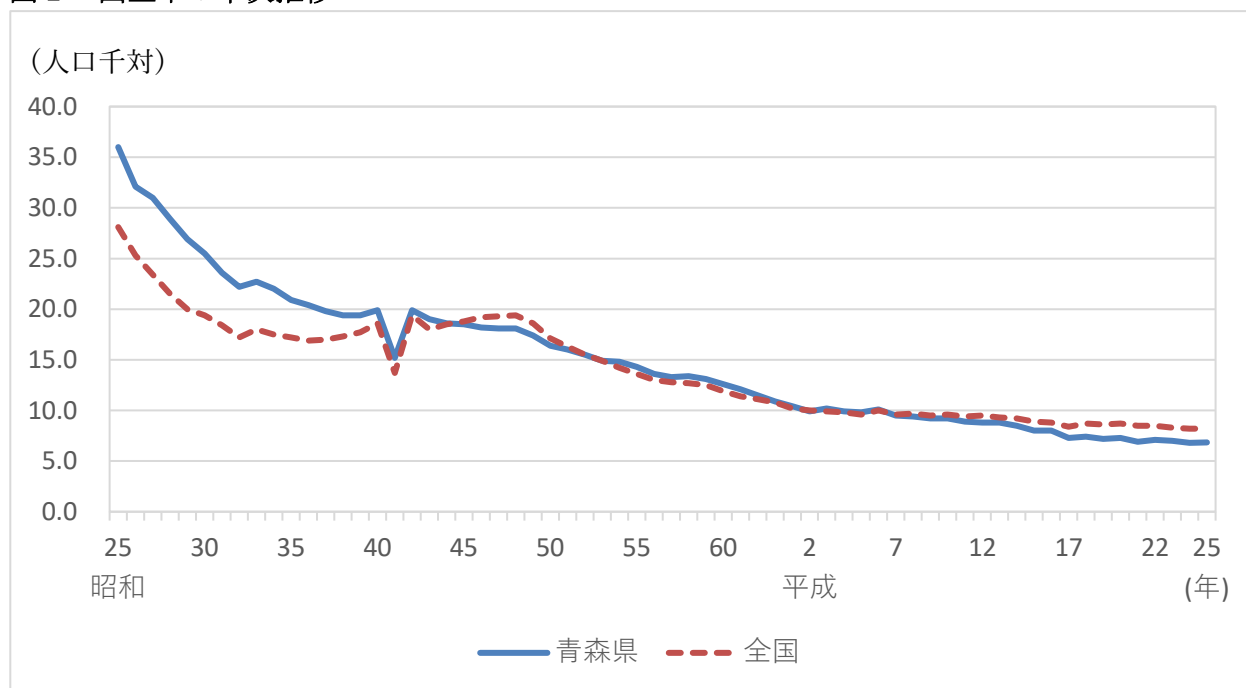
(1) 年次推移

本県における出生率（人口千対）の推移をみると、昭和 25 年の 36.0 をピークにその後は下降傾向を示し、昭和 37 年には 20.0 を、さらに平成 2 年には 10.0 を割った。平成 7 年以降は緩やかな減少が続いている。

平成 25 年の出生率は 6.8 で、前年と同じであり、全国値の 8.2 より 1.4 ポイント下回っている。（図 1）

また、合計特殊出生率は 1.40 で、前年の 1.36 を 0.04 ポイント上回っており、全国値の 1.43 を 0.03 ポイント下回っている。

図 1 出生率の年次推移



(2) 地域別出生

平成 25 年の市部の出生数は 7,352 人、郡部は 1,774 人であり、出生率（人口千対）は市部が 7.1 で郡部の 5.8 を 1.3 ポイント上回っている。

詳細は第 2 章第 6 表に記載されているので、参照されたい。

(3) 出生順位と母の年齢

平成25年に出生した子（死産を除く）が、子の母の何番目の子に該当するかを表す、出生順位別出生数の構成比は、第1子44.3%、第2子37.0%、第3子以上が18.7%となっており、第1子と第2子で全体の81.2%を占めている。（第2章第8表参照）

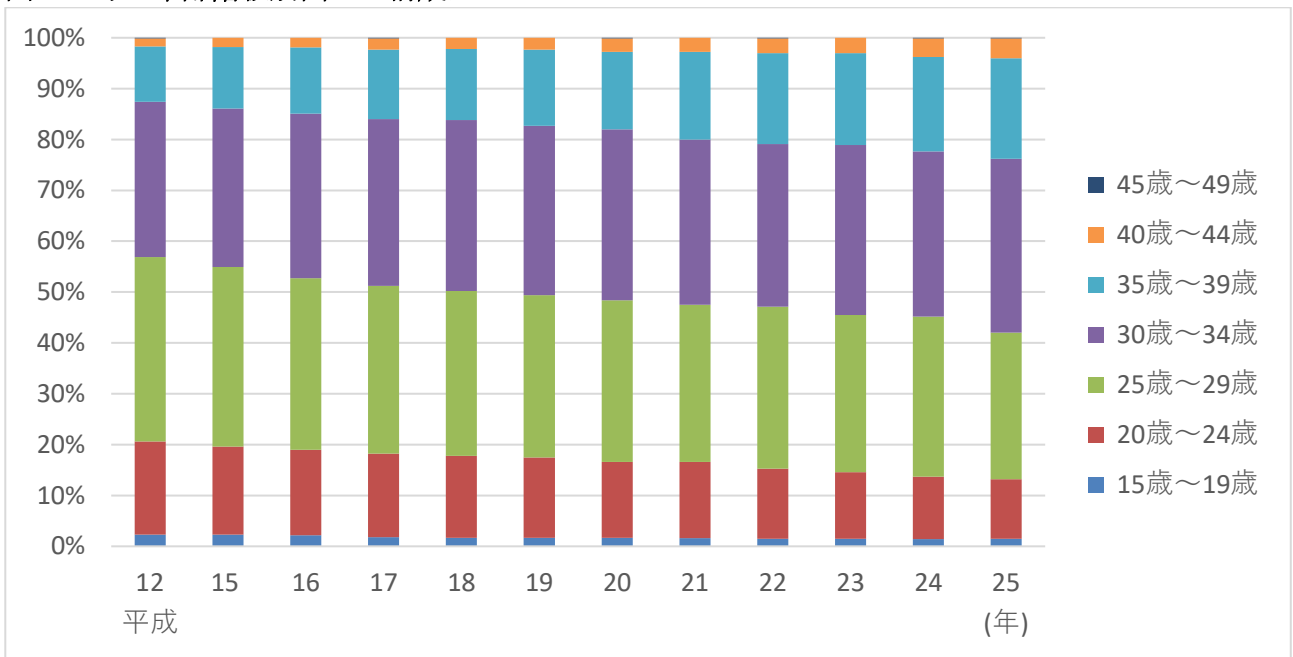
また、平成25年における母の年齢階級別出生の構成比をみると、30歳から34歳が34.2%で最も高く、次いで25歳から29歳が28.8%となっている。（表2）

表2 母の年齢階級別出生の構成比

(単位：%)

母の年齢	平成12年	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
15歳～19歳	2.3	2.3	2.2	1.8	1.7	1.7	1.7	1.6	1.5	1.5	1.4	1.5
20歳～24歳	18.3	17.3	16.8	16.4	16.1	15.8	14.9	15.0	13.8	13.1	12.3	11.7
25歳～29歳	36.3	35.3	33.7	33.0	32.4	31.9	31.8	30.9	31.8	30.9	31.4	28.8
30歳～34歳	30.5	31.2	32.4	32.8	33.6	33.3	33.6	32.5	32.0	33.4	32.5	34.2
35歳～39歳	10.9	12.1	13.0	13.7	14.0	15.0	15.2	17.2	17.9	18.1	18.5	19.8
40歳～44歳	1.6	1.8	1.9	2.2	2.2	2.3	2.7	2.8	2.9	3.0	3.7	3.9
45歳～49歳	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1

図2 母の年齢階級別出生の構成比



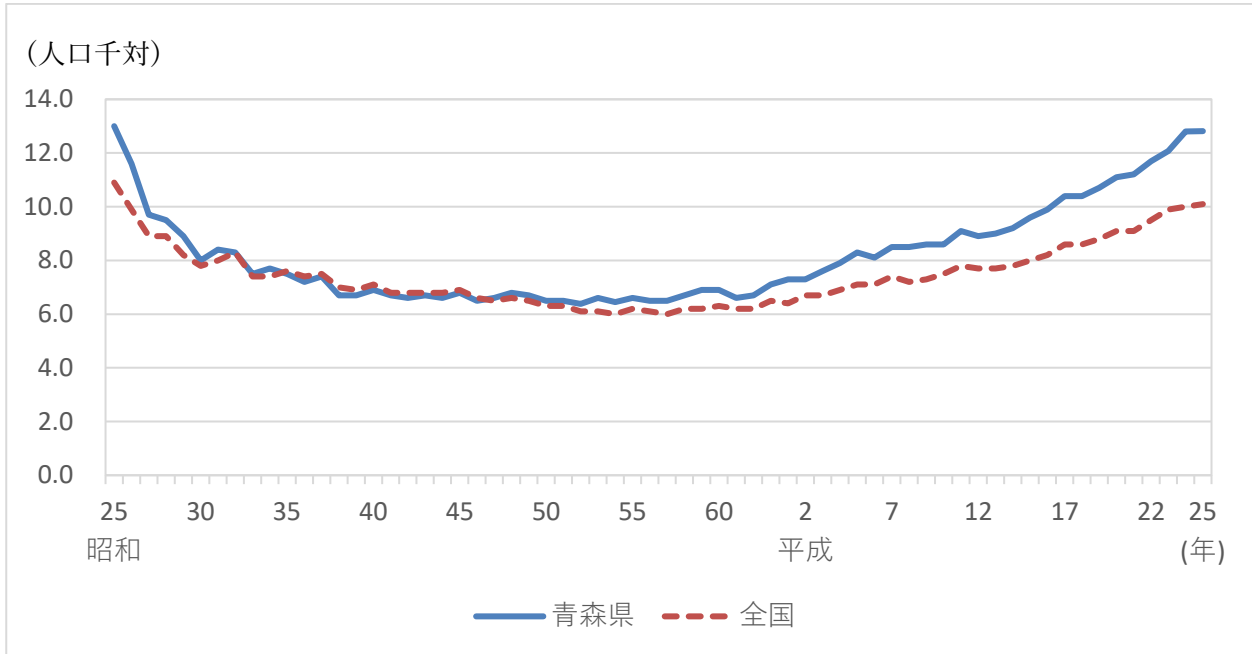
2 死 亡

(1) 年次推移

本県における死亡率（人口千対）の推移をみると、昭和 25 年以降著しく低下し、昭和 33 年には 8.0 を割るまでに改善された。しかし、平成 5 年には再び 8.0 を上回り、その後は人口の高齢化を反映して上昇傾向が続いている。

平成 25 年の死亡率は 12.8 で、前年と同じであり、全国値の 10.1 より 2.7 ポイント上回っている。（図 3）

図 3 死亡率の年次推移



(2) 地域別死亡

平成 25 年の市部の死亡数は、12,483 人、郡部が 4,629 人で、死亡率（人口千対）は、市部が 12.1 で郡部の 15.2 を 3.1 ポイント下回っている。

詳細は第 2 章第 13 表に記載されているので参照されたい。

(3) 主要死因

本県における主要死因の推移を年次別にみると、昭和25年に高かった「結核」が激減し、変わって昭和27年に「脳血管疾患」が1位となった。その後、「悪性新生物」と「心疾患」が増加し、昭和57年には「悪性新生物」が「脳血管疾患」を上回って1位になり、さらに昭和61年には「心疾患」が「脳血管疾患」を上回り、2位になった。(図4)

平成25年における本県の10大死因をみると、1位が「悪性新生物(がん)」、2位が「心疾患」、3位が「肺炎」で、1位から3位までで全死亡者の55.4%を占めている。(表3、図5)

なお、男女別にみた主要死因の順位は、男女共に1位悪性新生物、2位心疾患となっており、3位は男性が肺炎、女性が脳血管疾患となっている。(表3)

表3 死因順位別死亡者数、死亡率
(前年比較・全国比較)

死 因	青森県						全国		
	平成25年			平成24年			平成25年		
	順位	死 亡 数	率	順位	死 亡 数	率	順位	死 亡 数	率
死 亡 総 数		17,112	1,283.7		17,294	1,283.9		1,268,436	1,009.1
悪性新生物	1	4,928	369.7	1	4,805	356.7	1	364,872	290.3
心 疾 患	2	2,649	198.7	2	2,839	210.8	2	196,723	156.5
肺 炎	3	1,908	143.1	4	1,941	144.1	3	122,969	97.8
脳血管疾患	4	1,806	135.5	3	1,965	145.9	4	118,347	94.1
老 衰	5	885	66.4	5	795	59.0	5	69,720	55.5
不慮の事故	6	499	37.4	6	511	37.9	6	39,574	31.5
腎不全	7	475	35.6	7	457	33.9	8	25,101	20.0
自殺	8	311	23.3	8	327	24.3	7	26,063	20.7
肝疾患	9	219	16.4	10	213	15.8	11	15,930	12.7
糖尿病	10	213	16.0	9	229	17.0	12	13,812	11.0

(青森県男女比較)

死 因	平成25年					
	男性			女性		
	順位	死 亡 数	率	順位	死 亡 数	率
死 亡 総 数		8,738	1,395.8		8,374	1,186.1
悪性新生物	1	2,870	458.5	1	2,058	291.5
心 疾 患	2	1,211	193.5	2	1,438	203.7
肺 炎	3	1,027	164.1	4	881	124.8
脳血管疾患	4	847	135.3	3	959	135.8
老 衰	8	190	30.4	5	695	98.4
不慮の事故	5	281	44.9	7	218	30.9
腎不全	6	228	36.4	6	247	35.0
自殺	7	225	35.9	9	86	12.2
肝疾患	9	143	22.8	10	76	10.8
糖尿病	10	104	16.6	8	109	15.4

図4 主要死因別の死亡率の推移

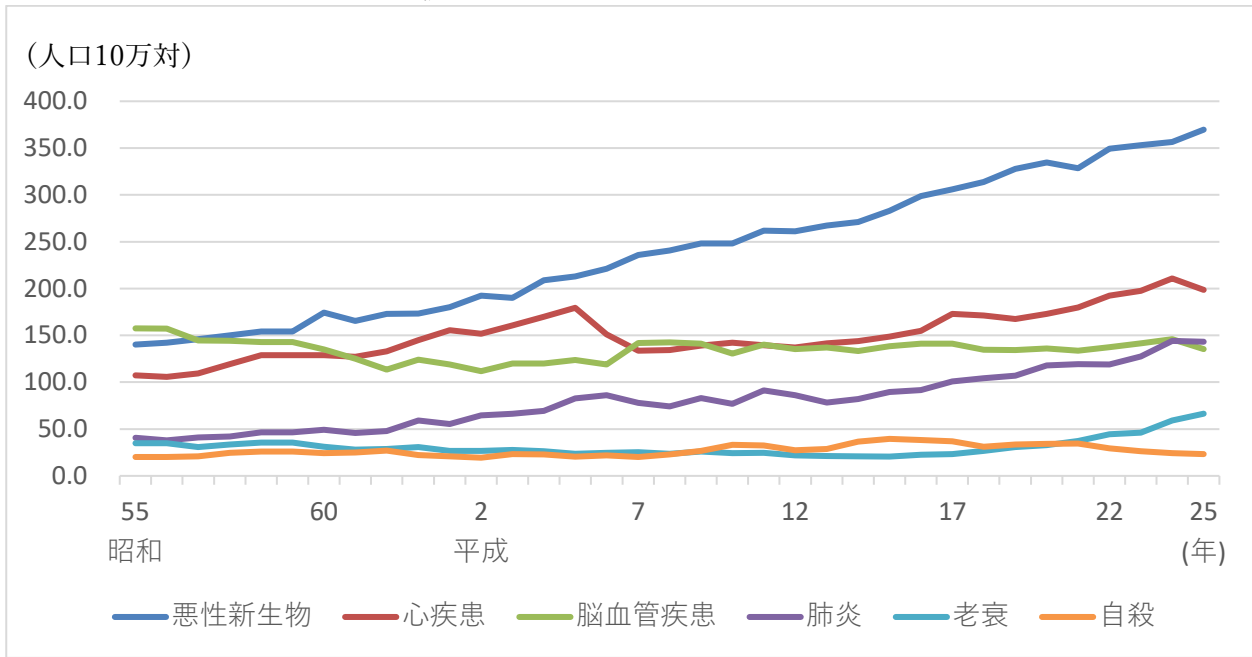
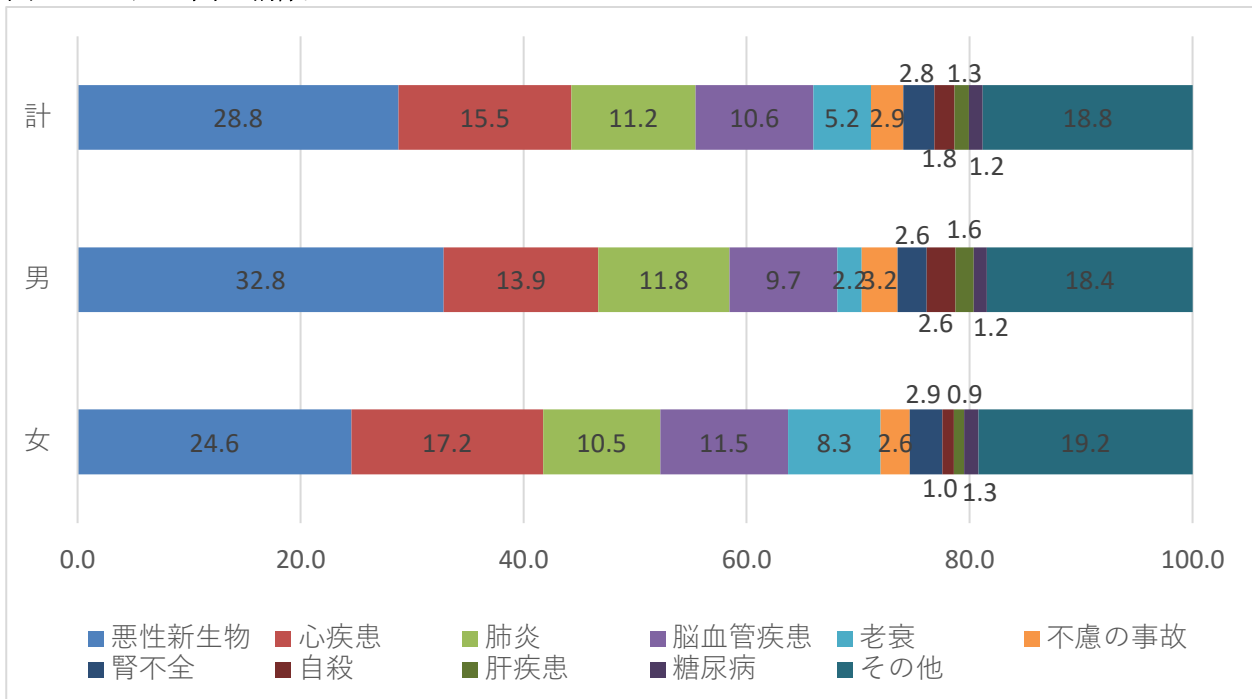


図5 10大死因の構成比



(4) 悪性新生物（がん）

本県における悪性新生物による死亡率（人口10万対）は年々増加傾向にあり、平成25年は369.7で、前年の356.7を13ポイント上回っており、全国値の290.3を79.4ポイント上回っている。

部位別では、「気管、気管支及び肺」、「胃」、「結腸」での死亡構成比が高く、これらで全体の42.7%を占めている。（表4）

表4 悪性新生物（がん）主な部位別死亡率、構成比率（年次推移）

区分	平成2年	7	12	17	19	20	21	22	23	24	25	
死亡率	悪性新生物	192.4	236.0	261.0	305.9	327.7	334.7	328.4	349.3	353.2	356.7	369.7
	食道	7.0	7.2	10.2	10.4	11.0	10.4	10.9	10.7	9.8	11.4	11.0
	胃	41.3	44.2	47.3	46.6	52.2	48.3	48.5	51.5	51.8	49.0	51.3
	結腸	-	19.0	22.2	28.3	30.2	32.2	30.1	35.8	33.9	34.6	36.4
	直腸S状結腸移行部 ²⁾	7.8	11.2	12.6	13.8	15.8	18.7	16.8	14.8	17.7	16.0	16.3
	肝及び肝内胆管 ³⁾	17.2	22.2	21.3	26.4	26.4	27.2	24.1	26.6	26.8	26.4	29.5
	胆のう及びその他の胆道	-	15.3	14.5	19.0	17.7	20.2	20.1	20.7	21.3	23.5	21.5
	膵	15.3	17.0	20.6	23.2	28.1	28.1	25.7	29.8	27.7	29.8	31.2
	気管、気管支及び肺	32.4	40.9	47.7	55.8	62.2	60.6	62.7	69.0	67.0	64.8	70.1
	乳房	4.5	7.0	7.7	9.1	10.9	11.0	10.3	11.3	11.5	11.8	12.9
	子宮 ⁴⁾	8.4	6.6	7.3	8.2	8.5	5.3	9.7	9.0	5.7	6.1	13.2
	白血病	4.5	4.7	3.9	4.2	5.6	5.7	6.5	5.2	5.7	5.9	5.3
	(再掲)大腸 ⁵⁾	-	30.2	34.8	42.2	46.0	50.9	46.9	50.6	51.6	50.6	52.7
構成比	悪性新生物											
	食道	3.6	3.1	3.9	3.4	3.4	3.1	3.3	3.1	2.8	3.2	3.0
	胃	21.5	18.7	18.1	15.2	15.9	14.6	14.8	14.7	14.7	13.7	13.9
	結腸	-	8.1	8.5	9.3	9.2	9.7	9.2	10.2	9.6	9.7	9.8
	直腸S状結腸移行部及び直腸 ²⁾	4.0	4.7	4.8	4.5	4.8	5.7	5.1	4.2	5.0	4.5	4.4
	肝及び肝内胆管 ³⁾	8.9	9.4	8.1	8.6	8.1	8.2	7.3	7.6	7.6	7.4	8.0
	胆のう及びその他の胆道	-	6.5	5.5	6.2	5.4	6.1	6.1	5.9	6.0	6.6	5.8
	膵	8.0	7.2	7.9	7.6	8.6	8.5	7.8	8.5	7.8	8.3	8.4
	気管、気管支及び肺	16.8	17.3	18.3	18.2	19.0	18.3	19.1	19.8	19.0	18.2	19.0
	乳房	2.4	3.0	2.9	3.0	3.3	3.3	3.1	3.2	3.2	3.3	3.5
	子宮 ⁴⁾	2.3	15.0	1.5	1.4	1.4	1.6	1.6	1.4	1.6	1.7	1.9
	白血病	2.4	2.0	1.5	1.4	1.7	1.7	2.0	1.5	1.6	1.6	1.4
	(再掲)大腸 ⁵⁾	-	12.8	13.3	13.8	14.0	15.4	14.3	14.5	14.6	14.2	14.2

※1) 死亡率は人口10万対、構成比は%。なお、死亡率のうち、子宮は女性人口10万対である。

※2) 平成6年までは「直腸、直腸S状結腸移行部及び肛門」。

※3) 平成6年までは「肝」。

※4) 平成6年までは「胎盤」を含む。

※5) 結腸と直腸S状結腸移行部を含む。

表5 悪性新生物（がん）部位別死亡数、死亡率、構成比率

(平成25年)

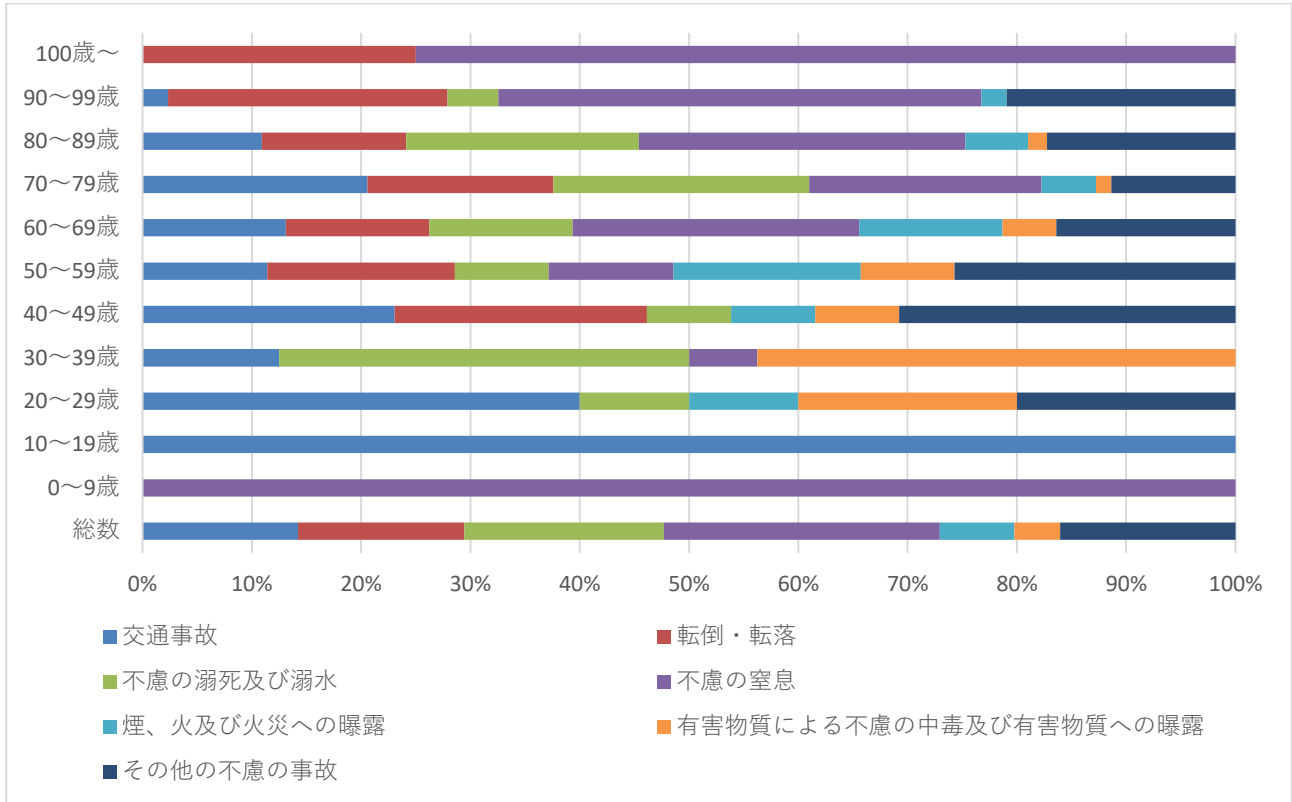
区分	死亡者数（人）			死亡率（人口10万対）			構成比（％）		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性
悪性新生物	4,928	2,870	2,058	369.7	458.5	291.5			
口唇、口腔及び咽頭	110	79	31	8.3	12.6	4.4	2.2	2.8	1.5
食道	147	125	22	11.0	20.0	3.1	3.0	4.4	1.1
胃	684	450	234	51.3	71.9	33.1	13.9	15.7	11.4
結腸	485	228	257	36.4	36.4	36.4	9.8	7.9	12.5
直腸S状結腸移行部	217	135	82	16.3	21.6	11.6	4.4	4.7	4.0
肝及び肝内胆管	393	259	134	29.5	41.4	19.0	8.0	9.0	6.5
胆のう及びその他の胆道	287	127	160	21.5	20.3	22.7	5.8	4.4	7.8
膵	416	196	220	31.2	31.3	31.2	8.4	6.8	10.7
咽頭	17	15	2	1.3	2.4	0.3	0.3	0.5	0.1
気管、気管支及び肺	935	693	242	70.1	110.7	34.3	19.0	24.1	11.8
皮膚	18	11	7	1.4	1.8	1.0	0.4	0.4	0.3
乳房	172	-	172	12.9	-	24.4	3.5	-	8.4
子宮	93	・	93	13.2	・	13.2	1.9	・	4.5
卵巣	63	・	63	8.9	・	8.9	1.3	・	3.1
前立腺	160	160	・	25.6	25.6	・	3.2	5.6	・
膀胱	95	59	36	7.1	9.4	5.1	1.9	2.1	1.7
中枢神経系	27	9	18	2.0	1.4	2.5	0.5	0.3	0.9
悪性リンパ腫	119	68	51	8.9	10.9	7.2	2.4	2.4	2.5
白血病	71	41	30	5.3	6.5	4.2	1.4	1.4	1.5
その他のリンパ組織	50	25	25	3.8	4.0	3.5	1.0	0.9	1.2
その他	369	190	179	27.7	30.4	25.4	7.5	6.6	8.7
(再掲) 大腸	702	363	339	52.7	58.0	48.0	14.2	12.6	16.5

(5) 不慮の事故

本県における平成25年の不慮の事故による死亡率（人口10万対）は37.4で、前年の37.9を0.5ポイント下回っており、全国値の31.4を6ポイント上回っている。

また、不慮の事故の原因別構成比で見ると、「不慮の窒息」が25.3%と最も高く、次いで「不慮の溺死及び溺水」、「転倒・転落」、「交通事故」の順となっている。（図6）

図6 不慮の事故による死亡数の年齢階級別構成比



区分	総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳～
不慮の事故	499	1	1	10	16	13	35	61	141	174	43	4
交通事故	71	-	1	4	2	3	4	8	29	19	1	-
転倒・転落	76	-	-	-	-	3	6	8	24	23	11	1
不慮の溺死及び溺水	91	-	-	1	6	1	3	8	33	37	2	-
不慮の窒息	126	1	-	-	1	-	4	16	30	52	19	3
煙、火及び火災への曝露	34	-	-	1	-	1	6	8	7	10	1	-
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	21	-	-	2	7	1	3	3	2	3	-	-
その他の不慮の事故	80	-	-	2	-	4	9	10	16	30	9	-
構成比												
交通事故	14.2	-	100.0	40.0	12.5	23.1	11.4	13.1	20.6	10.9	2.3	-
転倒・転落	15.2	-	-	-	-	23.1	17.1	13.1	17.0	13.2	25.6	25.0
不慮の溺死及び溺水	18.2	-	-	10.0	37.5	7.7	8.6	13.1	23.4	21.3	4.7	-
不慮の窒息	25.3	100.0	-	-	6.3	-	11.4	26.2	21.3	29.9	44.2	75.0
煙、火及び火災への曝露	6.8	-	-	10.0	-	7.7	17.1	13.1	5.0	5.7	2.3	-
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	4.2	-	-	20.0	43.8	7.7	8.6	4.9	1.4	1.7	-	-
その他の不慮の事故	16.0	-	-	20.0	-	30.8	25.7	16.4	11.3	17.2	20.9	-

3 乳児死亡及び新生児死亡

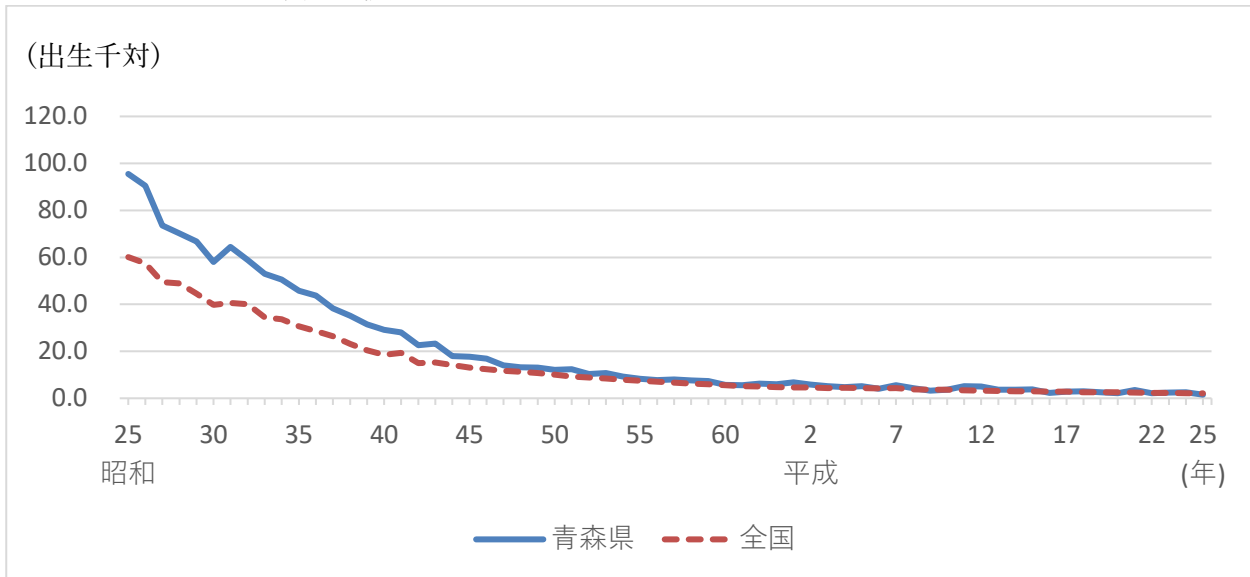
(1) 年次推移

① 乳児死亡

本県における乳児死亡率（出生千対）は、昭和 25 年は 96.5 であったが、その後大幅に改善され、昭和 54 年には 10.0 を割るまでになり、以降も低下を続けたが、平成 4 年以降は横ばいの状態が続いている。

平成 25 年の乳児死亡率は 1.5 で、前年の 2.6 を 1.1 ポイント下回り、全国値の 2.1 より 0.6 ポイント下回っている。（図 7）

図 7 乳児死亡率の年次推移

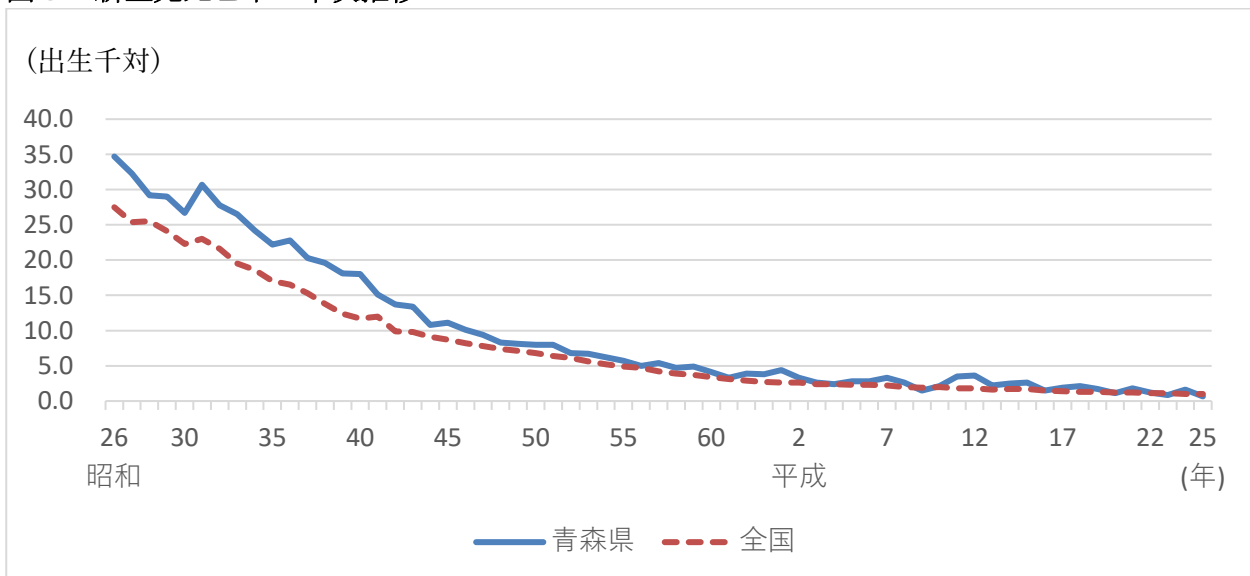


② 新生児死亡

新生児死亡率（出生千対）は、昭和 26 年以降、乳児死亡率と同様に、増加と減少を繰り返しながら緩やかに減少している。

平成 25 年の新生児死亡率は 0.7 で、前年の 1.6 を 0.9 ポイント下回っており、全国値の 1.0 を、0.3 ポイント下回っている。（図 8）

図 8 新生児死亡率の年次推移



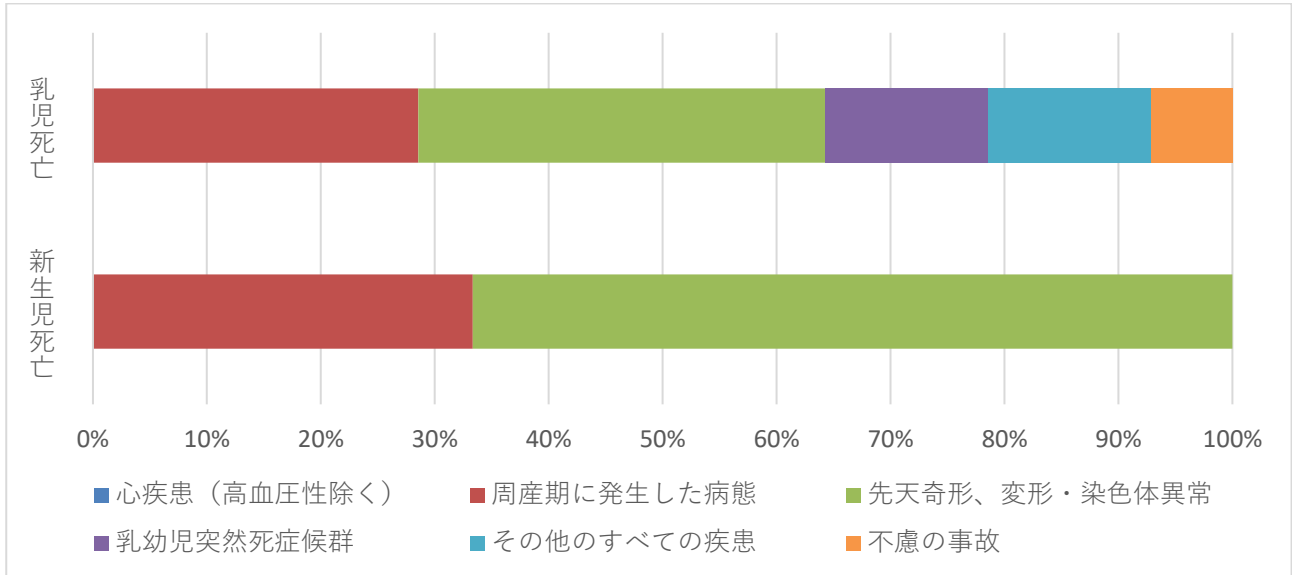
(2) 乳児死亡及び新生児死亡の主要原因

平成 25 年の乳児死亡を主要死因別構成比で見ると、「先天奇形、変形及び染色体異常」が高く、次いで「周産期に発生した病態」となっている。

また、新生児死亡を主要死因別構成比で見ると、「先天奇形、変形・染色体異常」が高く、次いで「周産期に発生した病態」となっている。(図 9)

詳細は、第 2 章第 2 2 表を参考されたい。

図 9 乳児及び新生児死亡率の主要死因構成比



4 死産

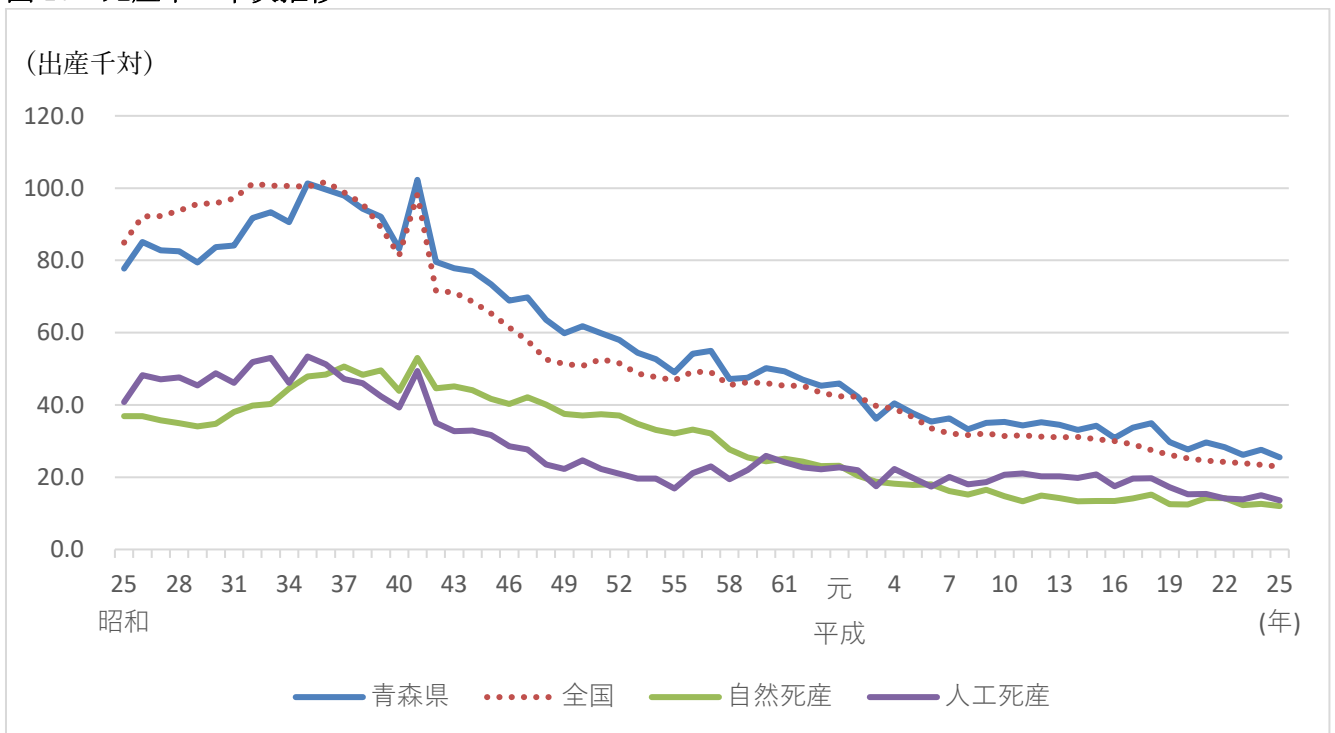
本県における死産率（出産千対：（出生＋死産）千対）は、昭和 25 年以降上昇傾向にあったが、その後、昭和 35 年をピークに下降した。一方、昭和 41 年（ひのえうま年）には急激に上昇し 102.3 となった。

なお、死産率のうち、自然死産率は昭和 41 年をピークに緩やかな減少傾向を示している。人工死産率は昭和 55 年に 20.0 を大きく下回ったものの、その後は再び 20.0 前後で推移し、横ばいの状況となっていたが、平成 19 年からは減少傾向が続いている。

平成 25 年の死産率は 25.5 で、前年の 27.6 より 2.1 ポイント下回っており、全国値の 22.9 より 2.6 ポイント上回っている。

また、自然死産率は 12.0 で、前年の 12.6 より 0.6 ポイント下回り、人工死産率は 13.6 で、前年の 15.0 を 1.4 ポイント下回っている。（図 10）

図 10 死産率の年次推移

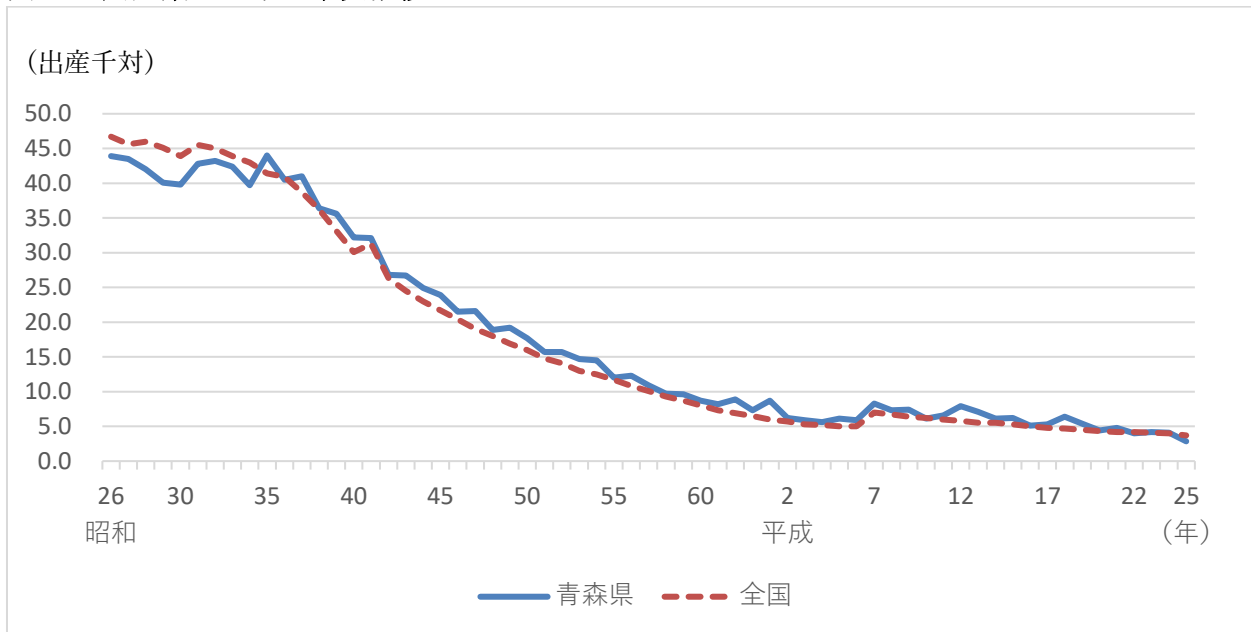


5 周産期死亡

本県における周産期死亡率（平成6年までは出生千対、平成7年からは出産千対（出生+満22週以後の死産）による）は、昭和37年まで40.0ポイント台で推移してきたが、昭和38年以降大幅に低下してきた。

平成25年の周産期死亡率は2.8で、前年の4.1を1.3ポイント下回っており、全国値の3.7を0.9ポイント下回っている。（図11）

図11 周産期死亡率の年次推移



※1) 周産期死亡率は、平成6年までは出生千対（出生+妊娠満28週以後の死産の千対）。平成7年以降は、出産千対（出生+妊娠満22週以後の死産の千対）。

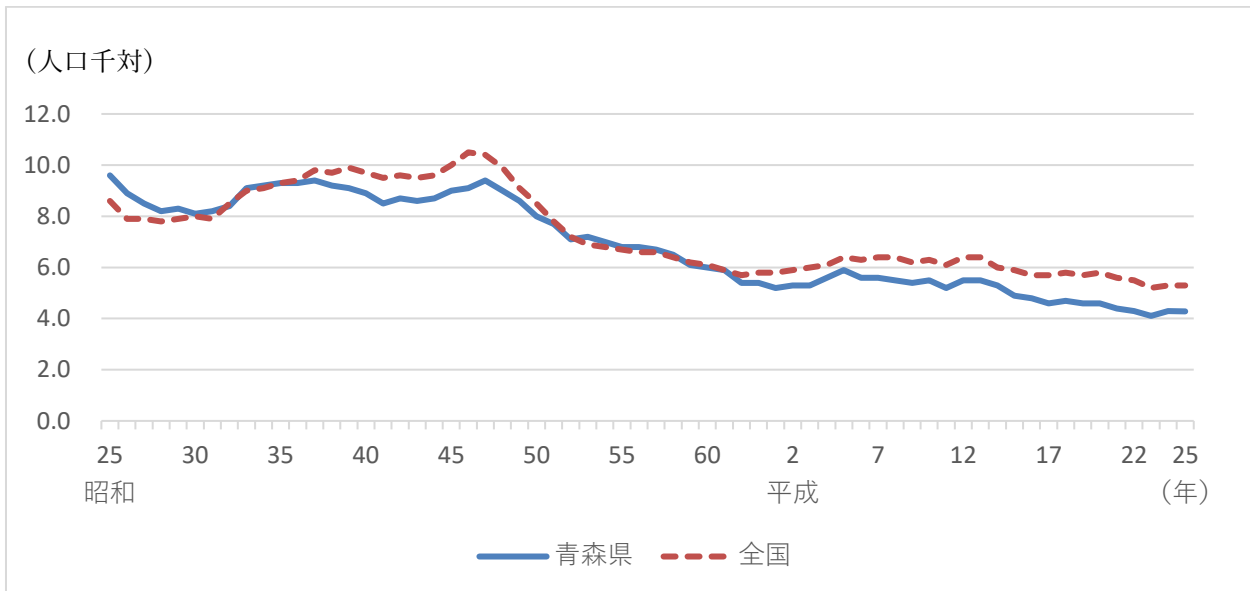
6 婚姻

(1) 年次推移

本県における婚姻率（人口千対）は、昭和 25 年以降 8.0～10.0 前後で推移していたが、昭和 47 年から下降傾向を示しており、昭和 61 年には 6.0 を割り込んだ。

平成 25 年の婚姻率は 4.3 で、前年と同じであり、全国値の 5.3 を 1.0 ポイント下回っている。
(図 12)

図 12 婚姻率の年次推移

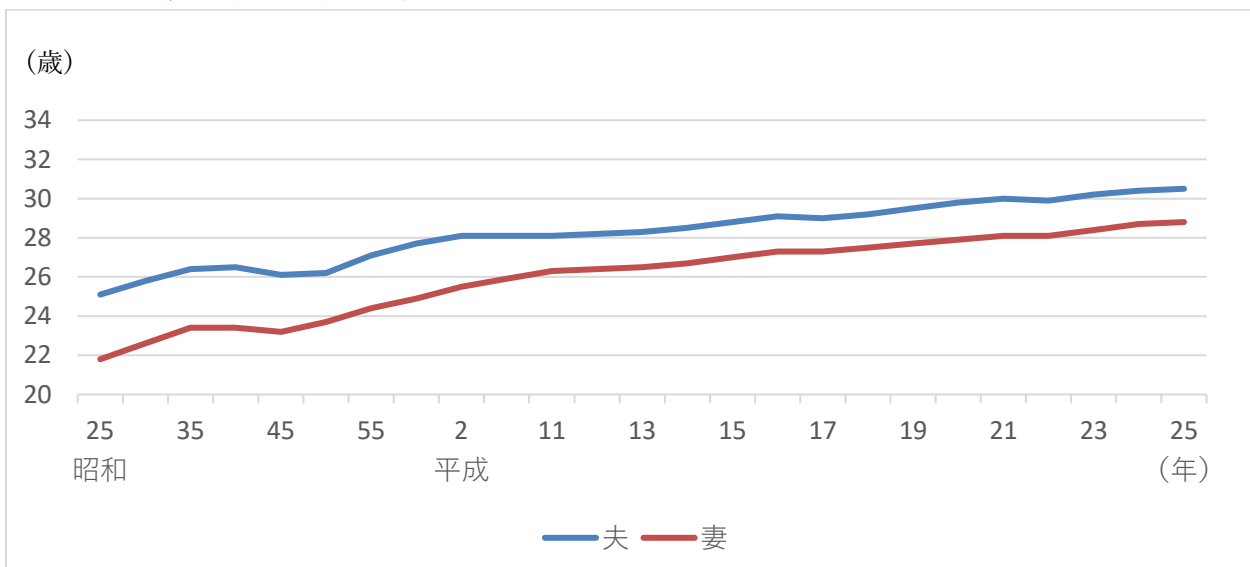


(2) 平均初婚年齢

本県における平均初婚年齢について、昭和 25 年以降の年次推移をみると、夫、妻ともに年齢が高くなっている。(図 13)

平成 25 年の平均初婚年齢（平成 25 年に結婚生活に入ったもので、結婚式を挙げた時、または同居を始めた時の年齢）は、夫が 30.5 歳、妻が 28.8 歳であり、全国値の夫 30.9 歳、妻 29.3 歳より、夫が 0.4 歳、妻が 0.5 歳下回っている。

図 13 平均初婚年齢の年次推移



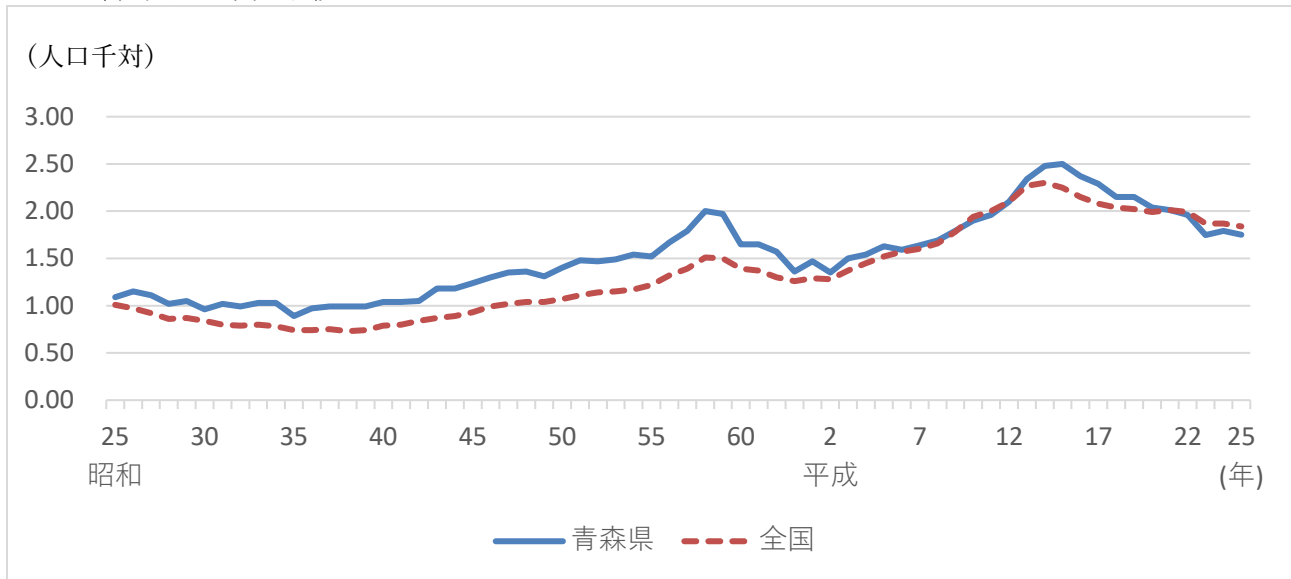
7 離婚

(1) 年次推移

本県における離婚率（人口千対）は、昭和 25 年以降横ばい状況が続いたが、昭和 40 年代から上昇し、昭和 58 年には 2.0 となった。それ以降は下降傾向を示していたが、平成 3 年から再び上昇したものの平成 16 年から減少傾向を示している。

平成 25 年の離婚率は 1.75 で、前年の 1.79 より 0.04 ポイント下回っており、全国値の 1.84 を 0.09 ポイント下回っている。（図 14）

図 14 離婚率の年次推移



(2) 離婚した夫婦の同居期間

平成 25 年の離婚件数 2,335 件のうち、結婚 5 年未満で離婚した件数の構成比は 30.9%で最も多く、次いで 5～10 年の 20.4%、20 年以上の 20.0%の順となっている。（表 6）

表 6 離婚件数、同居期間別構成比

(単位：%)

同居期間	平成2年	7年	12年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
0～5年	32.5	36.4	36.7	34.1	32.1	34.6	33.1	31.5	32.3	29.0	31.7	32.8	30.9
1年未満	7.6	7.1	6.5	5.5	5.5	5.8	6.0	5.9	6.1	4.9	5.4	6.1	5.6
1～2年	7.2	9.3	8.4	7.5	7.5	8.1	6.9	6.5	7.5	6.4	7.4	8.2	6.9
2～3年	6.5	8.2	7.7	7.6	7.6	6.7	7.4	6.9	6.9	6.8	7.3	6.6	6.6
3～4年	5.7	6.1	7.9	7.4	7.4	7.0	6.5	6.8	6.7	6.0	6.2	5.7	5.8
4～5年	5.5	5.8	6.2	6.1	6.1	6.9	6.4	5.5	5.1	5.0	5.4	6.2	6.0
5～10年	20.7	19.0	22.4	22.5	23.0	23.4	23.6	23.1	20.7	22.2	21.9	20.6	20.4
10～15年	16.1	13.2	11.0	12.9	13.9	12.6	14.0	14.0	14.5	13.7	14.7	14.6	14.6
15～20年	13.2	11.0	8.5	9.7	9.9	9.0	9.8	9.6	10.2	10.2	10.4	10.9	11.3
20年以上	17.3	18.9	18.1	20.0	19.2	18.5	17.4	17.9	19.5	20.1	17.9	18.0	20.0
不詳	0.2	1.5	3.4	2.9	2.0	1.9	2.1	3.8	2.8	4.7	3.4	5.1	2.7

第2 医療統計の概要

1 医療施設

(1) 病院数

平成25年10月1日現在の病院数は101施設で、前年の102施設から1施設減少している。人口10万対では7.6で、前年と同じであり、全国値である6.7を0.9ポイント上回った。

(2) 一般診療所数

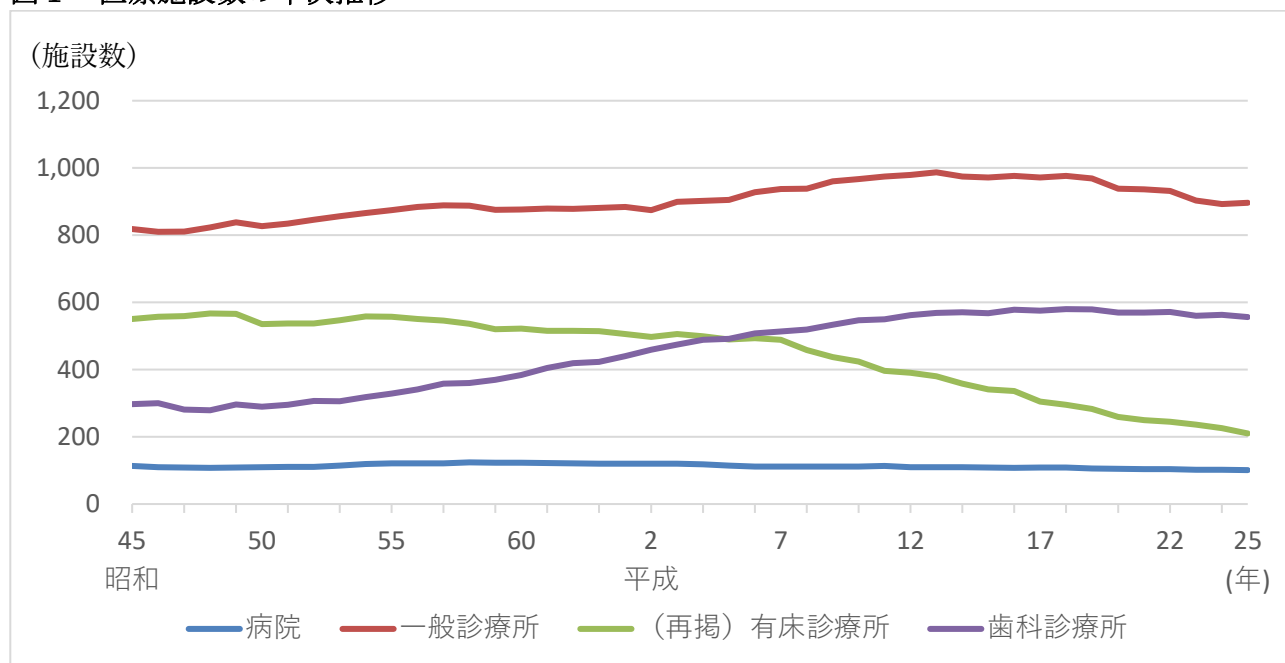
平成25年10月1日現在の一般診療所数は896施設で、前年の893施設から3施設増加している。人口10万対では67.1で、前年の66.1を1.0ポイント上回り、全国値である79.0を11.9ポイント下回った。

そのうち、有床診療所は210施設で、前年の226施設から16施設減少し、診療所全体の23.4%（全国値9.2%）となっている。

(3) 歯科診療所数

平成25年10月1日現在の歯科診療所数は556施設で、前年の563施設から7施設減少している。人口10万対では41.6で、前年の41.7を0.1ポイント下回り、全国値である54.0を12.4ポイント下回った。

図1 医療施設数の年次推移



2 医師・歯科医師・薬剤師

(1) 医師

平成24年12月31日現在の医師数は2,639人であり、前回調査の平成22年(2,636人)から、3人増加している。

また、人口10万対では195.5であり、前回(192.0)に比べ、3.5ポイント上回り、全国値である237.8を42.3ポイント下回った。

表1 医師数の年次推移

(単位：人)

区分	平成6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	
青森県	医師数	2,377	2,432	2,487	2,516	2,564	2,522	2,561	2,563	2,636	2,639
	人口10万対	161.6	164.0	168.3	170.5	174.5	173.7	180.0	184.1	192.0	195.5
全国	医師数	230,519	240,908	248,611	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699	295,049	303,268
	人口10万対	184.4	191.4	196.6	201.5	206.1	211.7	217.5	224.5	230.4	237.8

(2) 歯科医師

平成24年12月31日現在の歯科医師数は787人であり、前回調査の平成22年(781人)から、6人増加している。

また、人口10万対では58.3であり、前回(56.9)に比べ、1.4ポイント上回り、全国値である80.4を22.1ポイント下回った。

表2 歯科医師数の年次推移

(単位：人)

区分	平成6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	
青森県	歯科医師数	681	708	730	717	758	757	777	789	781	787
	人口10万対	46.3	47.7	49.4	48.6	51.6	52.1	54.6	56.7	56.9	58.3
全国	歯科医師数	81,055	85,518	88,061	90,857	92,874	95,197	97,198	99,426	101,576	102,551
	人口10万対	64.8	67.9	69.6	71.6	72.9	74.6	76.1	77.9	79.3	80.4

(3) 薬剤師

平成24年12月31日現在の薬剤師数は2,052人であり、前回調査の平成22年(2,012人)から、40人増加している。

また、人口10万対では152.0であり、前回(146.5)に比べ、5.5ポイント上回り、全国値である219.6を67.6ポイント下回った。

表3 薬剤師数の年次推移

(単位：人)

区分	平成6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	
青森県	薬剤師数	1,347	1,422	1,519	1,556	1,684	1,724	1,796	1,882	2,012	2,052
	人口10万対	91.6	95.9	102.8	105.4	114.6	118.7	126.2	135.2	146.5	152.0
全国	薬剤師数	176,871	194,300	205,953	217,477	229,749	241,369	252,533	267,751	276,517	280,052
	人口10万対	141.5	154.4	162.8	171.3	180.3	189.0	197.6	209.7	215.9	219.6